

次世代に誇れる 緑うるおう まち 成田

成田市緑の基本計画 概要版



平成22年3月

成 田 市

1. 計画の基本事項

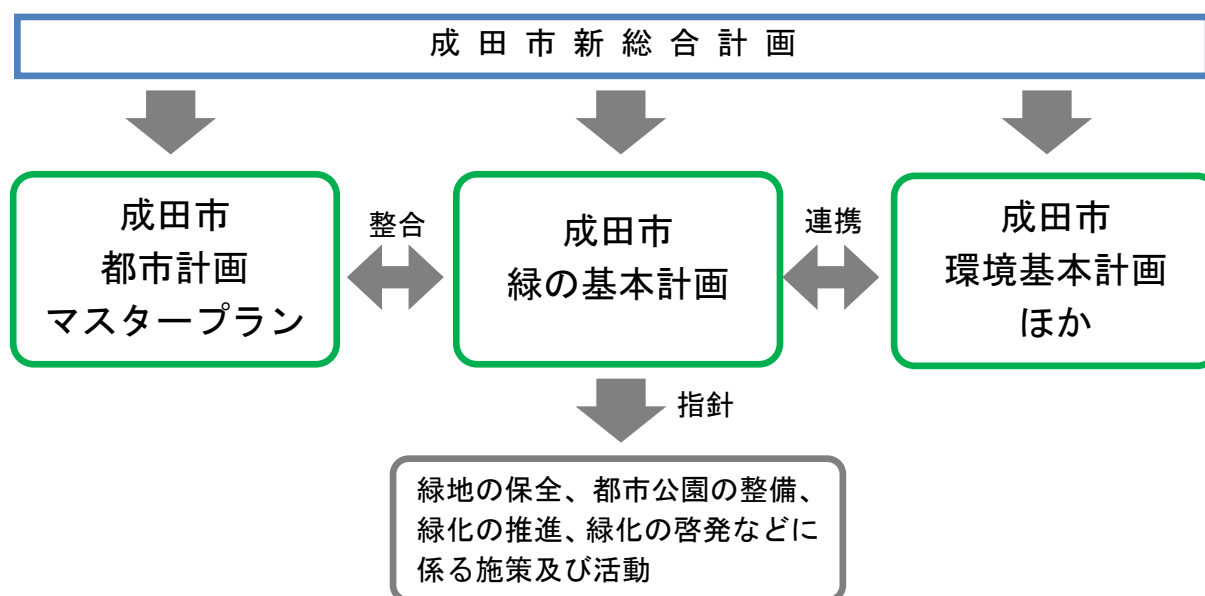
1-1 緑の基本計画とは

「緑の基本計画」とは、都市緑地法第4条に規定された「市町村の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」のことであり、都市公園の整備や特別緑地保全地区の指定など都市計画法に基づく諸制度の活用のみならず、道路、河川、学校等の公共施設の緑化、市民や事業者などの民有地における緑地の保全や緑化など、緑全般に関する計画です。

1-2 計画の位置づけと背景

旧成田市では平成8年に「成田市緑の基本計画」を策定、目標年次を平成22年としていることから、緑の状況や社会情勢の変化などを踏まえ、新たな「緑の基本計画」を策定するものです。

また、平成18年に「成田市新総合計画」、平成20年「成田市都市計画マスタープラン」が策定されており、これらの計画と整合をとった計画となるよう位置づけられています。



1-3 目標年次

緑の基本計画は市の総合施策における緑部門の基本計画であることから、成田市新総合計画、成田市都市計画マスタープランとの整合を図り、平成37年（2025年）の都市像を展望しつつ、平成27年（2015年）を本計画の目標年次とします。

2. 基本理念

都市の緑は、市民の生活に潤いと安らぎを与えるとともに、気候を和らげるなどの機能があります。さらに、地震発生時の防災機能や二酸化炭素の吸収・固定、生物多様性の確保などの環境改善機能が注目されています。

成田市には、谷津田や里山をはじめとする郷土の原風景となる景観を構成する都市の緑が残っています。さらに、根木名川・大須賀川などの中小河川が流れるとともに、印旛沼が成田市の景観や生態系の軸となっています。平地に広がる農地などの緑は、身近な生活環境に潤いを与えています。

成田山新勝寺などの個性ある歴史資源が保全され、周囲の緑と相まって成田らしい風格のある景観をつくっています。また、市内には樹林地を中心として多くの緑が残っており、市街地の新しい緑とあわせて保全・創出していくことが求められています。

これらの歴史的な資源は年間 1,000 万人以上の人々が訪れる観光資源となっており、周辺の緑は、魅力ある観光地づくり、景観形成のため重要な要素となっています。

計画の実現にあたっては行政だけでなく、市民・事業者等が協働して緑を保全・創出していくことが求められています。

次世代に誇れる 緑うるおう まち 成田

3. 基本目標

緑の基本計画の目標値（平成 27 年）を以下に掲げます。

●全市域における都市公園の面積

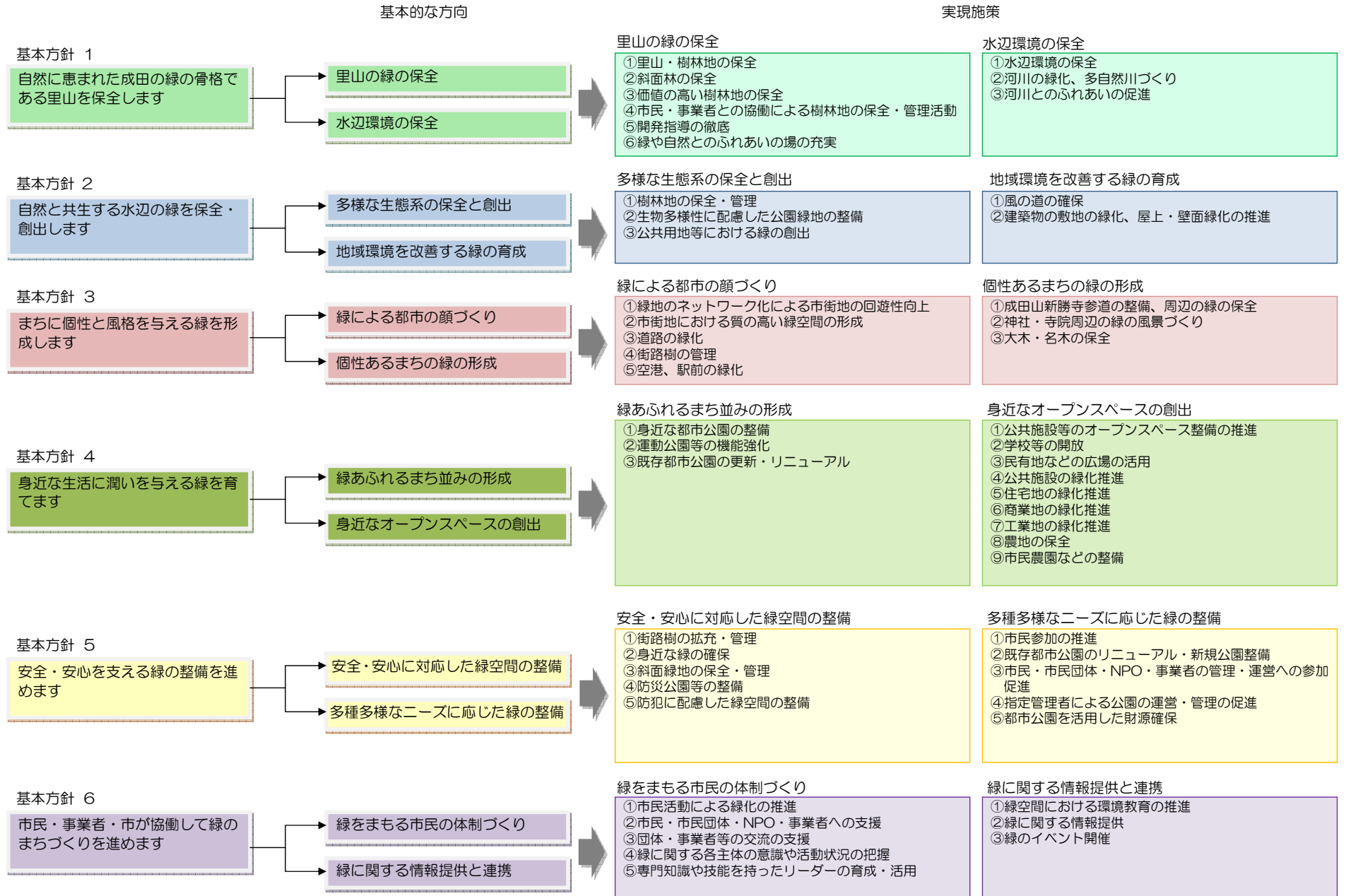
現況（平成 21 年）129.55ha(1,295,542 m²) ⇒目標（平成 27 年）156.15ha(1,561,500 m²)
10.3 m²/人 10.4 m²/人
市民一人当たりの都市公園面積を 1%増やします。

表 緑地の保全及び緑化の目標

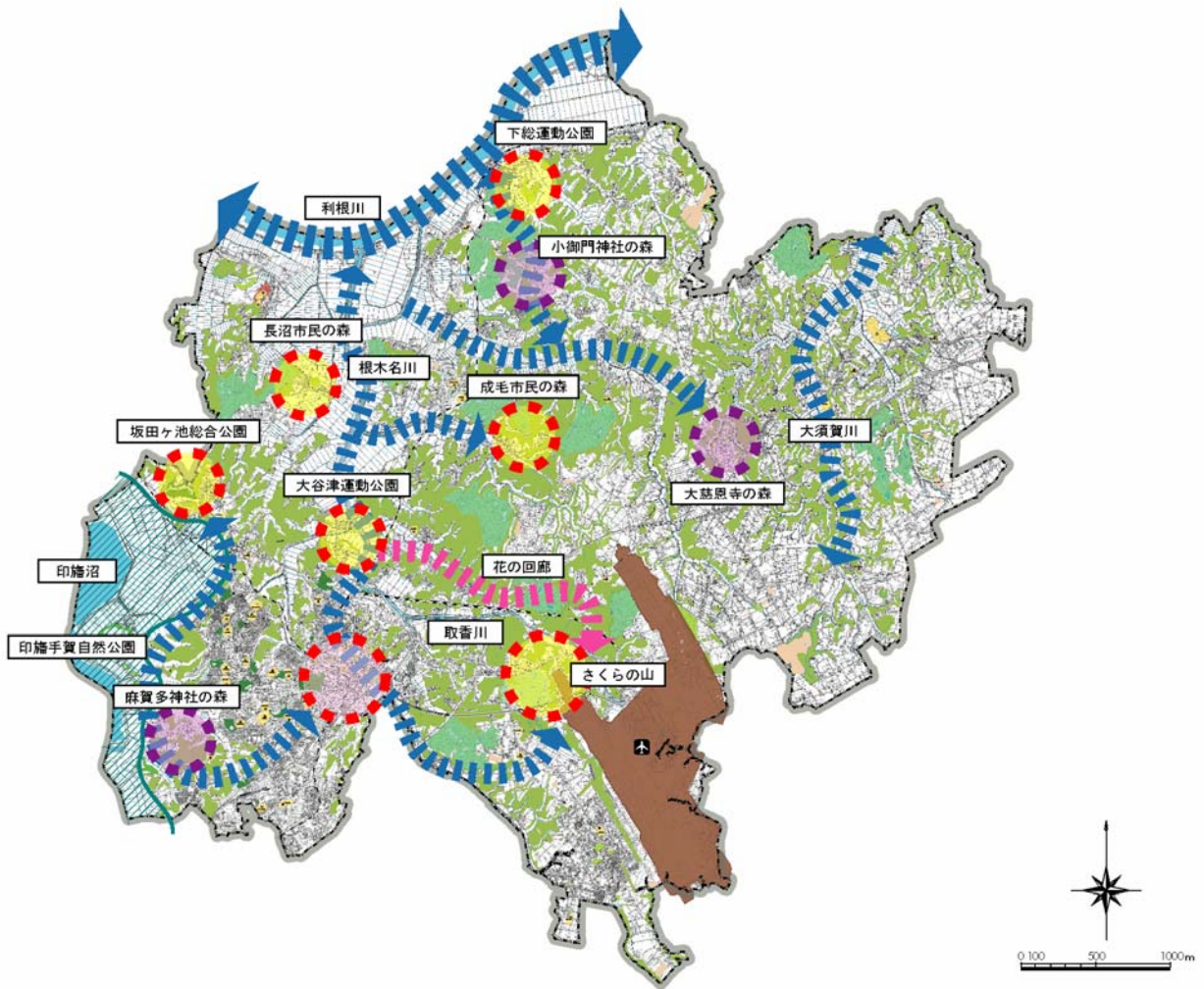
区分	目標設定の項目		現況 (平成 21 年)	計画目標 (平成 27 年)
量的 目標	緑地の確保目標量	市街地	6.6%	6.9%
		都市計画区域	3.7%	4.4%
	市民一人当たりの都市公園面積		10.3 m ² /人	10.4 m ² /人
	市民一人当たりの都市公園等面積		62.3 m ² /人	62.4 m ² /人
成果 目標	緑に関する市民意識 の割合、満足度	緑への満足度	78.1%	80%
		公園の利用回数 (年に数回利用)	36.8%	50%
		住民と行政の協働による 緑の管理への意向	52.4%	60%

4. 基本方針






次世代に誇れる
緑うるおっ
まち
成田



5. 緑の将来像



緑の将来像図は、今後の成田市の緑のあるべき姿を示したものです。

緑の将来像図の構成要素			凡 例
緑の骨格	郷土の緑	樹林地、里山、谷津田の緑	
緑の連携	水と緑のみち	利根川や市内の中小河川を結ぶみち 印旛沼周辺の緑	
まちの緑	緑の拠点		
	都市の核となる緑	中台運動公園、赤坂地区公園などの都市公園	
	市街地周辺の緑	坂田ヶ池総合公園、大谷津運動公園などの都市公園や市民の森など	
	郷土の緑	麻賀多神社や大慈恩寺、小御門神社の森などの樹林地	

6. 地域別緑のまちづくり方針

八生・豊住地域

根木名川などの水辺や周辺の田園風景、里山を含めた良好な景観形成に努めます。

【重点的に取り組む施策】

- ・市民の森の城址などの歴史的資源の保全と機能強化
- ・市民活動による里山保全

下総地域

利根川などの水辺や周辺の田園風景、歴史的資源とその周辺の樹林地などの保全と活用及び景観形成に努めます。

【重点的に取り組む施策】

- ・（仮称）下総親水広場を含めた利根川周辺の整備
- ・市民活動による里山保全

大栄地域

大須賀川周辺の谷津と里山などの風景と歴史的資源の保全と活用及び景観形成に努めます。

【重点的に取り組む施策】

- ・グリーンウォーターパークの整備・拡充
- ・市民活動による里山保全



八生・豊住地域

成田・公津・
ニュータウン地域

下総地域

中郷・久住地域

遠山地域

大栄地域

成田・公津・ニュータウン地域

歴史・文化的資源及び水辺周辺の緑や里山などの保全による風格あるまちづくりを進めます。

【重点的に取り組む施策】

- ・都市公園等のバリアフリー化
- ・生産緑地の機能保全や遊休農地の市民農園利用

中郷・久住地域

根木名川などの水辺や周辺の田園風景、谷津や里山を含めた良好な景観形成に努めます。

【重点的に取り組む施策】

- ・市民の森の城址などの歴史的資源の保全と機能強化
- ・花の回廊構想の推進

遠山地域

丘陵地の緑などの自然環境を活かした日本の空の玄関に相応しい緑の保全及び景観形成に努めます。

【重点的に取り組む施策】

- ・さくらの山の整備・拡充
- ・三里塚記念公園の機能強化
- ・花の回廊構想の推進

7. 緑化重点施策

7-1 花の回廊構想等との連携

取香川を中心として桜による景観づくりが進められており、花の回廊構想として根木名川ふるさと川づくり事業などの総合的な構想となっています。根木名川・取香川に接続する成田国際空港周辺の公園や緑地と連携させて回遊できる水と緑のネットワークづくりを推進していきます。

また、市の北側には利根川が流れ、西側には印旛沼が接しており、大規模な水辺空間を活用した緑の拠点整備も推進していきます。

7-2 生産緑地機能の保全

生産緑地制度は、市街化区域内にある農地等の農業生産活動等に裏付けられた緑地機能だけでなく、環境改善や災害の防止、農林漁業と調和した都市環境の保全等に役立つ土地を計画的に保全し、良好な都市環境の形成に寄与しています。農業人口の減少・市街化の進展により良好な緑地である生産緑地が減少する傾向にあることから、土とふれあうレクリエーション需要にこたえ、生産緑地機能を保全するため市民農園などを拡充する方策を検討していきます。



市民農園

7-3 市民の森の拡充方策の検討

現在、市内には「長沼市民の森」と「成毛市民の森」が開設され、散策などのレクリエーション活動の拠点となっています。これらの緑地内には城跡もあり、文化財としても貴重なものとなっています。また、市内には斜面林、樹林地が多く残っており、今後も貴重な緑空間を保全する「市民の森」を拡充する方策を検討していきます。



長沼市民の森



成毛市民の森